

## 【ご案内】第7回遺伝カウンセラーのための実践集中講座

### ～遺伝性腫瘍診療現場の即戦力を目指して～

国立病院機構四国がんセンター主催「第7回遺伝カウンセラーのための実践集中講座～遺伝性腫瘍診療現場の即戦力を目指して～」を下記の予定で開催致します。この講座は、主に遺伝カウンセラーコースの学生の方や現在勉学中の認定遺伝カウンセラーの方を対象に、遺伝性腫瘍の診療を行う際の遺伝性腫瘍のより正確な知識の習得、遺伝性腫瘍での遺伝カウンセリング技術の向上を目指すものです。受講料、宿泊費(当院宿泊施設使用の場合に限る)は無料です。

一年で最も暑い時期ですが、遺伝性腫瘍の診療でより高いレベルを目指される方には是非お集まり頂きたいと思います。

国立病院機構 四国がんセンター  
がん診断・治療開発部長 大住 省三

#### 記

#### 1. 日時

2018年8月2日(木) 13:00～8月8日(水) 12:00

#### 2. 場所

独立行政法人国立病院機構四国がんセンター  
(〒791-0280 愛媛県松山市南梅本町甲 160 番)

#### 3. 対象

- ①遺伝カウンセラー養成課程の大学院生または修了生
- ②認定遺伝カウンセラー
- ③その他(上記以外で遺伝性腫瘍診療の関連業務に従事または従事予定)

#### 4. 修了要件

適宜の課題が合格基準に達している

#### 5. 内容

別紙参照

※詳細は講座専用 WEB サイトまたはメールでお知らせします

※受講決定者に WEB サイトアクセスのための ID・PW をお知らせします

6. 定員

12名程度

※応募多数の場合、申込内容を基に選考させていただきます

7. 参加費

無料

8. 宿泊

四国がんセンター敷地内の宿泊施設「向日葵」をご準備いたします（無料）。

※原則、2名同室ですので体調等の事情で難しい場合は事前にご相談ください。

9. 申込方法

以下の URL または QR コードから申込フォームにアクセスの上ご入力ください。

申込〆切：6月24日（日）24時



<https://goo.gl/forms/46o9XUDg5IsKNcks2>

※受講可否は7月2日（月）までに、メールでご連絡いたします

※必ず添付可能なメールアドレスをご登録ください

10. 問合せ先

国立病院機構四国がんセンター

TEL:089-999-1111(教育研修部：菊内)

主催：独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター（遺伝性がん診療科）

後援：日本 HBOC コンソーシアム

## 講座概要

### 1. 講師

田村智英子（FMC 東京クリニック／順天堂大学医学部附属順天堂医院 遺伝相談外来）

松田圭子（地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター）

その他（四国がんセンター 遺伝性がん診療科スタッフ等）

### 2. カリキュラム（予定）

#### ①がん診療の全般【講義中心】

- ・腫瘍学の基礎
- ・乳がん、大腸がん、婦人科がん等の臨床（診断と治療の実際）
- ・がんクリニカルシーケンス

#### ②遺伝性腫瘍

- ・基本知識と臨床応用【講義/演習】  
遺伝性乳がん卵巣がん、リンチ症候群、FAP を中心に
- ・家族歴聴取、家系図に基づくリスク評価【講義/演習】
- ・その他【講義】  
多発性内分泌腫瘍1型2型、フォン・ヒッペル・リンドウ病、  
ポイツ・イエガース症候群、カウデン病、網膜芽細胞腫、  
リー・フラウメニ症候群、遺伝性びまん性胃癌等

#### ③カウンセリング理論と臨床応用【講義/演習】

- ・情報提供技術
- ・心理援助理論
- ・健康行動理論
- ・グリーフカウンセリング

#### ④がん患者・家族の支援体制【情報提供/見学】

- ・がん相談支援センター概要・社会資源情報
- ・臨床心理士、看護師、医療ソーシャルワーカー等の他職種との連携
- ・緩和ケア病棟見学等

## 参加者の声

本講座は2012年より開催しており、これまでに延べ60名にご参加いただきました。参加された皆さんの感想の中から一部抜粋して、紹介します。

- ◇ 今回はロールプレイでたくさん反省が残ったので、もう一度やるチャンスがあれば良いと思いました。でも、細かなフィードバックを自分のロールプレイにももらえたり、クライアントは本当は何を思ってその言葉を出しているのか、それに対してどうするのかを考えたり、とても勉強になりました。
- ◇ 先生や他の受講生のロールプレイを見ることで、良いところを真似したりできるので、みんながロールプレイを練習できるのはとても勉強になりました。
- ◇ 非常に有益だったのは、家系図をたくさん提示いただき、どのような疾患をどの程度疑うべきなのかの実際のディスカッションです。第一に疑う遺伝性腫瘍だけでなく、その他に鑑別すべき遺伝性腫瘍がないかどうかという観点をもつことが、遺伝カウンセラーとしての存在意義だということを心に刻みました。
- ◇ 遺伝カウンセラーコース在籍時には、“遺伝性”腫瘍に focus して学習していたが、一般的ながんがどのように診断され、治療されていくのかという、がんの総論を今回改めて勉強することが出来たので、遺伝性腫瘍と一般的ながんの共通点・相違点が自分の中でクリアになった。
- ◇ 田村智英子先生の心理援助理論の講義は、認定遺伝カウンセラーがどのようなことを心がけて実践しているのかということがわかり大変勉強になりました。もっともっとお話が聴きたかったです。
- ◇ 集中講座に参加しなければ、会うことのできなかつた仲間と出会えた。遺伝カウンセラーやその卵だけでなく、他職種の参加者がいたのも良かったと思う。
- ◇ まだ遺伝カウンセリングについて学び始めのときに、講座に参加して有意な時間を過ごすことができるのかと不安を感じながら参加したが、講座に参加したことで医療従事者としての自分の中の価値観や考え方を変えることができ、この講座が私にとっての **Teachable Moment** となった。
- ◇ 医師の先生方、看護師の方、患者・家族支援センターの方、心理士の方など、様々な職種の方からお話を聞くことができ、遺伝性腫瘍の診療についてこれまでよりも広い視野で捉えることができるようになりました。自分にはない視点をもった先生方から聞くお話は、どれも非常に興味深いものでした。
- ◇ 四国がんセンターでの一週間の集中講座を終え、愛媛から戻り、迎えた翌日月曜日の朝は、とても清々しい朝でした。身体的にはとても疲れているはずでしたが、病院へ向かう道すがら、あの点はこういうふうに改善してみよう、新たにこういうことに取り組んでみよう、とさまざまな考えが浮かんできていました。

以上